

「国の線量調査事業への協力」に関する報告

H25 年 8 月 6 日

(独) 放射線医学総合研究所

(独) 日本原子力研究開発機構

復興庁は田村市の避難指示解除準備区域の早期解除を皮切りに、避難されている住民の方々のできるだけ早期の帰還を実現する方針です。一方、帰還された方々にとっては、その後、どれくらいの線量を被ばくするのが、最も懸念されるところです。そのために被災者生活支援チームは、8 月から 9 月にかけて田村市の当該地域を含む 6 市町村¹に対して、避難指示解除準備区域が解除された後に帰還される方々が受ける可能性のある線量を評価するための線量調査を行うこととしています。放医研及び原研機構では、お互いに役割分担しつつ、共同で本事業に協力することとしています。内容等を以下の通り報告申し上げます。

記

1. 事業概要

避難指示が解除された地域に帰還される方々の放射線防護においては、周辺線量当量(率)(以下「空間線量(率)」という。)からの推計に加えて、個人線量計によって個人線量当量を測定することによる個人被ばく線量の把握が重要になる。帰還後の被ばく線量を適切に把握するため、空間線量率からの推計、並びに個人線量計による測定を適切に実施できるよう、空間線量と個人線量の関係等について必要な実証的調査を行う。具体的には、個人線量計を携行して福島県内の避難指示解除準備区域等で個々人の被ばく線量を測定すると共に、その場の空間線量を測定する。避難指示解除準備地域として 6 市町村の当該地域を対象とする。

2. 調査の内容

放医研：住民の方々の職業等(特徴的な行動：農業、林業、建設業、事務職、子供、老人)を模擬して、実際に個人線量計を付けて行動し、ある一定時間後の個人被ばく線量を測定する。また、行動途中の代表的な地点での空間線量率を測定し、両測定値の相関を見る。

原子力機構：人の外部被ばくを模擬することのできるアクリル製のブロック(ファントム)を用いて、上記行動途中の代表的な地点、また屋内での個人被ばく線量を

¹対象市町村 田村市、川内村、楡葉町、飯舘村、葛尾村、南相馬市

測定する。同地点では空間線量（率）も測定し、両測定値での相関を見る。

まとめ：個人被ばく線量測定値と、当該の空間線量率から推測した測定値の、両者を比較し、今後、長期に亘ってどれくらいの線量を受けるかを推測する参考データとする。

3. 実施計画

(1) 事前調査

- ①対象 田村市 都路町古道地区
- ②調査実施期間 8月7日
- ③参加人数 14名
- ④調査内容 職業を模擬した際に、どこでどのような行動をとるか、その場所や移動経路を確認する。また、経路上の代表的な地点の空間線量（率）やファントム上の個人線量計による線量を測定する。また、全員、個人被ばく線量計を装着し、部分的であるが、個人被ばく線量のデータを得る。

(2) 第1回調査

- ①対象 田村市 及び 2自治体（川内村、檜葉町を想定）
- ②調査実施期間 8月26日の週を予定
※（田村市を除き）対象地域の事前調査をほぼ1週間前に実施予定
- ③参加予定人数 未定（最大20名規模）

(3) 第2回調査

- ①対象 3自治体（飯舘村、葛尾村、南相馬市を想定）
- ②調査実施期間 9月中旬の1週間を予定
※対象地域の事前調査をほぼ1週間前に実施予定
- ③参加予定人数 未定（最大20名規模）